遠隔履修プログラムの利点

＜仕事や私生活に関して＞

教職大学院進学を考える際には、現状の仕事や私生活とのかかわりを切り離すことはできません。

そこで、遠隔履修プログラムであれば、現在の私生活の環境を変えることなく修学することが可能となります。

＜修学期間に関して＞

修学期間については、学びを深める上で２年間としています。これにより、「１年目は、授業と教育実践研究実習Ⅱの計画の検討を行い、２年目は、勤務と関連付けた実習Ⅱの実践と実践論文の執筆に、時間的な余裕をもって取り組めます。

＜教育実践研究実習に関して＞

勤務校を実習校にすることで、勤務校の学校課題と関連付けた実践的な実習課題の設定ができます。

また、実習計画を検討する際には、これまでの勤務校での自身の実践を生かしたり、管理職や同僚の先生等と相談したりできるので、実施可能な計画の検討ができます。

さらに、実習課題は、勤務校の管理職や同僚の先生等が解決したい課題等と関連付けるので、勤務校の実践への還元もしやすくなります。

＜学校課題への取組に関して＞

管理職にとってみると、加配教員が配置されフリーの立場になった教職大学院派遣の教員と対話を繰り返しながら、それぞれの認識を確かめ合ったり、教職大学院の教員を交えて戦略を検討したりすることも可能です。

つまり、学校課題の解決を教職員を巻き込んで考え、学校としての実践につなげることができます。

そして、このような取組の過程は、自校のスクールリーダーを育成する上で重要な示唆を得ることができると考えます。